

# 平成25年度「カリキュラムアンケート」結果の 分析と考察

福井大学高等教育推進センター

F D ・ 教育企画部門

カリキュラム評価アンケートワーキンググループ

平成26年3月



## 平成 25 年度「カリキュラム評価アンケート」結果の分析と考察

### 1. 全体に関する考察と分析

松友一雄、横井正信  
(教育地域科学部)

#### 【回答率とアンケートの枠組み・実施方法】

本年度行ったカリキュラム評価アンケートは、昨年同様、後期履修科目登録に合わせてウェブで実施した。昨年と同様、アンケート項目は、3 学部共通の質問項目 15 項目（自由記述による回答を含む）と各学部のカリキュラムの特性に合わせた学部それぞれの質問項目によって構成されている。本年度は共通項目の中に「単位の実質化」について学生の周知度を捉えるための項目を設け、その結果を受けて、「単位の実質化」について学生に周知を促す試みを考えるための情報を得ることを目指した。

次に、アンケートの回答率については、教育地域科学部の回答率は 46.1% (328/711 人) と、昨年度の 45.5% とほぼ同様のものではあった。また、工学部においても 35.1% (882/2512 人) と、昨年度 35.4% とほぼ同様であった。両学部共に回答率が 50% を切る状況が続いており、継続してアンケートの目的の周知や結果の開示などに取り組んでいく必要が有ることが指摘できる。

一方で、医学部では、昨年度同様に 6 割を超える回答率（医学科 62%、看護学科 69%）があり、アンケートそのものの周知ができていることに加え、肯定的な意見が多く見られることから、教育学部、工学部共にその取り組みを取り入れる必要があると考えられる。

#### 【各項目に関する分析と考察】

##### (1) 学部の理念や目標、(2) 学科・課程の教育理念や目標に対する理解

平成 24 年度と比較して、学部の理念や目標に関しては、3 学部全体で「理解している」が 14% から 17% へ、「だいたい理解している」が 58% から 61% へ、両数値合計で 72% から 78% へと上昇した。また、学科・課程の教育理念や目標に対する理解に関してもほぼ同様の傾向にあり、両数値合計で 73% から 78% へと上昇し、学部や学科の理念、目標について基本的に理解している学生の比率が 8 割近くに達した。

各学部に関する分析でも示されているが、オープンキャンパスの実施、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの整備、各学部、学科・課程における入学時のガイダンス、大学教育入門セミナー等の初年次教育の改善等を通じて、受験生及び入学生に対して、様々な機会に各学部、学科・課程の理念や目標に関する説明が行われていることが一定の効果を発揮していると考えられる。

ただし、そのように様々な機会を通じて各学部、学科・課程の理念や目標に関する説明が行われているにも拘わらず、それらを「あまり理解していない」あるいは「理解してい

ない」と回答した学生が、学部レベルでも学科・課程のレベルでも依然として 22%程度いることは、なお改善の余地があることを示している。今後は、学生に対する説明をより分かりやすいものにしていくための方策を考える必要がある。

### **(3) 各学年で履修すべき科目に対する理解、(7) 必修・選択必修・選択科目の区別に対する理解**

各学年で履修すべき科目に対する理解に関しては、3 学部全体で「理解している」が 30%から 33%へ、「だいたい理解している」が 56%から 54%へ、両数値の合計で 86%から 87%へとわずかな変化を示しただけで、昨年の調査とほぼ同一の結果となった。必修・選択必修・選択科目の区別に対する理解に関しても、「理解している」が 41%から 40%へ、「だいたい理解している」が 49%から 48%へとほとんど変化が見られなかった。

これらの結果から、各学年で履修すべき科目や必修・選択必修・選択科目の区別に関しては、10 人中 9 人近くの学生が基本的に理解しており、懸念すべき状態にはないと考えることもできる。ただし、学年ごとに履修すべき科目や必修・選択必修・選択科目の区別を「あまり理解していない」あるいは「理解していない」学生が 10%あまりいることも事実であり、本アンケートの回答率からみて、科目履修の仕方について理解できていない学生の比率はさらに高い可能性もある。この点については、今後、各学科・課程及び助言教員等による指導や、カリキュラム・マップの整備等を通じて対策を講じていく必要がある。

### **(4) シラバスの使い方に対する理解、(5) シラバスの活用度**

シラバスの使い方に対する理解に関しては、3 学部全体で「理解している」が 35%から 38%へ、「だいたい理解している」が 53%から 51%へ、両数値合計で 88%から 89%へと、履修科目に対する理解度と同じく昨年とほぼ同一の結果となった。シラバスの活用度に関しては、「活用している」が 33%から 38%へ、「ときどき活用している」が 42%から 41%へと変化し、両数値合計では 75%から 79%へと上昇した。

ほぼ 9 割の学生はシラバスの存在とその利用の仕方に関する一定の理解を持っており、シラバスに対する認知は学生の間には十分浸透するようになったと言える。ただし、シラバスに対する認知度に比べて、その活用度は上昇傾向を示しているものの依然として認知度よりも 10 ポイント程度低くなっており、学部や学科・課程によってもかなりの差が見られる。必修科目の多寡がこのような差の一因になっている（必修科目が多ければ、学生にとってはシラバスを見る見ないに関係なく履修しなければならない）ことも考えられるが、各学部に関する分析においても指摘されているように、依然として 2 割あまりの学生が授業の内容を確認せずに受講している状況については改善が必要である。

### **(6) 卒業要件に対する理解**

卒業要件に対する理解に関しては、3 学部全体で「理解している」が 37%、「だいたい

理解している」が 50%、両数値合計で 87%と、それぞれ昨年と同じ値となった。この数値に関しても、9 割近くの学生が卒業要件を理解していると肯定的にとらえることもできる。ただし、批判的にとらえれば、本気で卒業しようと考えている学生にとっては卒業要件の理解は本来 100%であるべきであるにも拘わらず、実際には平均で 10%を越える学生が卒業要件を理解できていないと言うこともできる。また、シラバス利用の場合と同じく、学部や学科・課程によって一定の差が見られる。

このような状況の背景としては、①低学年次の学生にとっては卒業は数年先のことであり、未だその要件を完全に把握する必要性に迫られていない、②教育地域科学部に関する分析においても指摘されているように、教務課の手厚いサポートがあるがゆえに、学生、教員共にそれに依存し、卒業要件を理解する努力を怠っている、③シラバス利用の場合と同じく、学科・課程によっては必修科目が多く、それらを履修していけば自動的に卒業になるという潜在的意識がある、④カリキュラムの構造や資格取得に必要な条件が複雑な学科・課程では、卒業要件を完全に理解することにはかなりの努力を要するといった諸要因があることが考えられる。今後は、要因ごとに改善方法を検討することが必要であろう。

#### **(8) 履修登録方法に対する理解**

履修登録方法に対する理解に関しては、3 学部全体で「理解している」が 57%で昨年と変化がなく、「だいたい理解している」は 40%から 38%へと微減した。95%の学生が理解していることは本来当然のことであり、むしろこの項目で「あまり理解していない」あるいは「理解していない」という回答があること自体が問題である。1 年次生については、入学直後に高等学校までとはまったく異なった履修登録方法に戸惑うということが考えられるので、その点を考慮する必要はある。しかし、本学では教務課によって丁寧な説明と指導が行われているため、その点での改善の必要はもはやないと考えられる。履修登録方法を理解していない 5% (科目履修に対する理解の項目でも指摘したように、この比率は実際にはもっと高い可能性もある) の学生に関する根本的な問題については、工学部に関する分析で指摘されている通りである。

#### **(9) 授業の欠席、再試験・追試験の手続きに対する理解**

授業の欠席、再試験・追試験の手続きに対する理解に関しては、3 学部全体で「理解している」が 17%から 22%へ、「だいたい理解している」が 37%から 34%へと変化し、両数値合計では昨年の 54%に対して 56%と大きな変化はなかった。授業の欠席や再試験・追試験の手続きについて基本的に理解している学生の比率が依然として 5 割台にとどまっており、この結果は、半数近くの学生が欠席する際に教務課にも教員にも何も届け出していないか、あるいは教員に口頭で届け出ているという状態になっていることを示している。本来の手続きをしないままの欠席に伴う問題については、教育地域科学部に関する分析において指摘されている通りであり、欠席の抑止という点からも、きちんとした手続きによって

学生の出欠を把握することがまず必要である。ただし、工学部に関する分析において指摘されている通り、現在のような欠席届の在り方が最善のものであるか否かについても検討し、改善を図るべきであろう。

#### **(10) オフィスアワーの存在に対する理解、(11) オフィスアワーの利用度**

オフィスアワーの存在に関しては、3 学部全体で「知っている」と回答した学生が 72% から 75% へと増加したのに対して、「知らない」と回答した学生は 28% から 25% へと減少し、4 分の 3 の学生がオフィスアワーの存在自体については認識しているという状態となっている。他方、オフィスアワーを「活用している」と回答した学生 7%、「ときどき活用している」と回答した学生は 13% と、昨年と比べて変化がなかった。

オフィスアワーの存在自体に対する認知度が上昇したことはプラスの変化であるが、依然として 4 分の 1 の学生がオフィスアワーの存在自体を知らないという状態を改善しなければならないことは明らかである。また、オフィスアワーを何らかの形で活用している学生が 20% と非常に少数にとどまっていることは、さらに問題である。ただし、オフィスアワーの活用度に関しては、全体として低い一方で、学部によって 17%～38% と一定の差がある。医学部及び工学部に関する分析において指摘されているように、オフィスアワーを取り巻く状況は各学部、学科・課程によって異なっている面があり、それぞれに適した設定方法について検討し、学生にとっても教員にとってもより利用しやすい制度に工夫していく余地があると考えられる。

#### **(12) 卒業後の将来展望・目的意識**

卒業後の具体的な将来展望・目的意識を「持っている」と回答した学生は、3 学部全体で 21% から 23% へ、「だいたい持っている」と回答した学生は 42% から 43% へと変化し、両数値合計で 63% から 66% へと、大きな変化はないものの昨年と比べて増加傾向が見られた。しかし、教育地域科学部学校教育課程においては教員、医学部においては医師・看護師、工学部においてはエンジニアと、本学は基本的に卒業後の進路をイメージしやすい学部から構成されており、複数学部を有する国立大学の中で就職率 6 年連続 1 位とされていることを考えれば、この状況については大いに改善の必要性があると言える。個別に見れば、医学部看護学科の 90% 等、将来展望・目的意識に関して非常に高い数値を示している学科もあるものの、全体では 4 割近い学生が卒業後の展望や目的意識を「あまり」あるいは「全く」持っていない状況にある。各学部における分析でも示されているように、このような状況の背景には共通の要因と各学部それぞれが抱える個別的な要因があると思われる。前者については、目的意識の高い看護学科での取り組み等を全学的に参考にしつつ、各学部での個別的対応を検討すべきである。

【全学】

アンケート実施期間:2013/09/18(水)~2013/12/6(金)

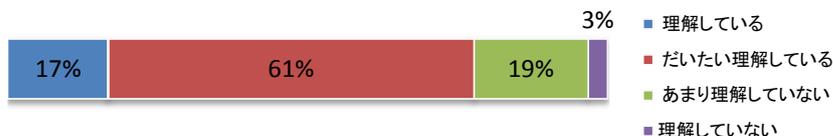
対象人数:3601人 回答人数:1461人 回答率:40.6%

(1) 学部の理念や目標を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

(人)

理解している	245
だいたい理解している	890
あまり理解していない	279
理解していない	46



(2) 課程の教育理念や目標を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

(人)

理解している	250
だいたい理解している	887
あまり理解していない	273
理解していない	44

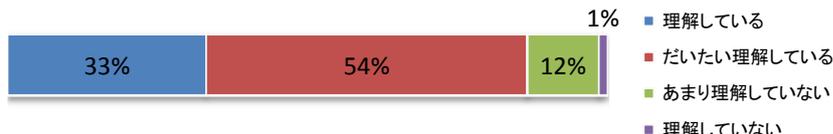


(3) 4年間を通じ各学年でどのような科目を履修しなければならないか理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

(人)

理解している	481
だいたい理解している	777
あまり理解していない	174
理解していない	20

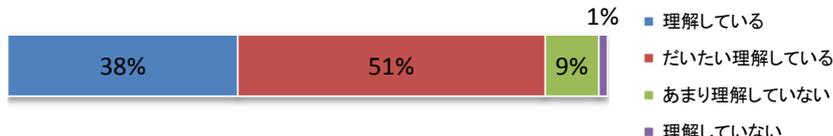


(4) シラバスの使い方を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

(人)

理解している	558
だいたい理解している	745
あまり理解していない	130
理解していない	21

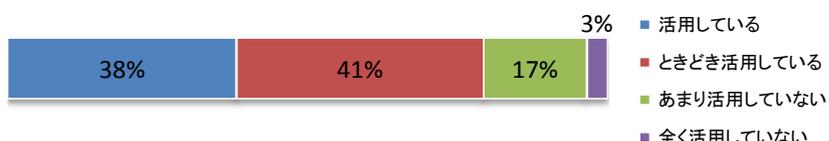


(5) シラバスを活用している。

・活用している ・ときどき活用している ・あまり活用していない ・全く活用していない

(人)

活用している	554
ときどき活用している	599
あまり活用していない	249
全く活用していない	50



(6) 卒業要件を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

(人)

理解している	537
だいたい理解している	723
あまり理解していない	171
理解していない	17

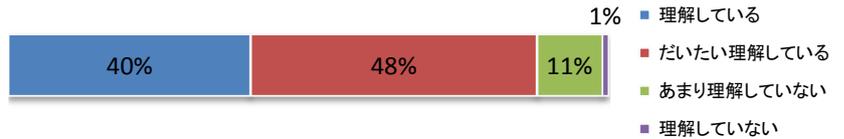


(7) 必修科目、選択必修科目、選択科目の区分を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

(人)

理解している	584
だいたい理解している	691
あまり理解していない	158
理解していない	14

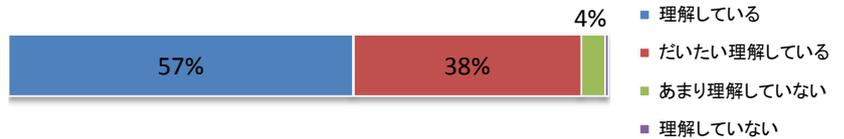


(8) 履修登録の方法を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

(人)

理解している	831
だいたい理解している	550
あまり理解していない	57
理解していない	8



(9) 授業を欠席する際や再試・追試を願い出る際の手続きを理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

(人)

理解している	320
だいたい理解している	491
あまり理解していない	511
理解していない	129



(10) オフィスアワーの存在を知っている。

・知っている ・知らない

(人)

知っている	1087
知らない	360

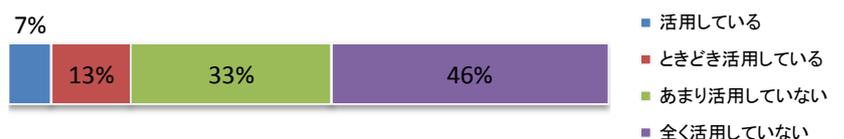


(11) オフィスアワーを活用している。

・活用している ・ときどき活用している ・あまり活用していない ・全く活用していない

(人)

活用している	103
ときどき活用している	192
あまり活用していない	483
全く活用していない	667

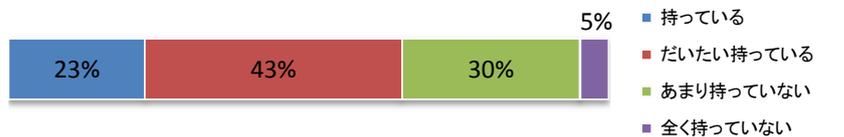


(12) 卒業後の具体的な将来展望・目的意識を持っている。

・持っている ・だいたい持っている ・あまり持っていない ・全く持っていない

(人)

持っている	327
だいたい持っている	617
あまり持っていない	427
全く持っていない	68

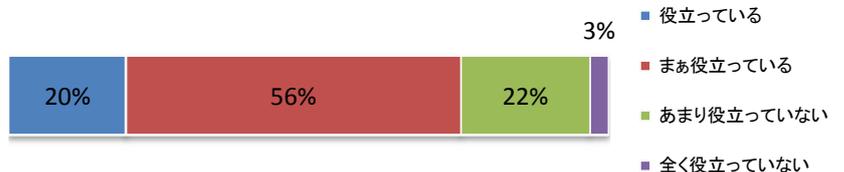


(13) 課程のカリキュラムが自身の将来設計に役立っている。

・役立っている ・まあ役立っている ・あまり役立っていない ・全く役立っていない

(人)

役立っている	283
まあ役立っている	807
あまり役立っていない	311
全く役立っていない	44



(14)授業の前後に自主学習が必要であることを知っている。

・知っている ・知らない

		(人)
知っている		1308
知らない		139



■ 知っている

■ 知らない



## 1 教育地域科学部の分析と考察

### 【各項目に関する分析と考察】

#### (1) 学部の理念や目標を理解、(2) 課程の教育理念や目標を理解について

昨年度と比較して、項目1については71%→77%、項目2については76%→80%と大幅に理解している学生の割合が上昇している。これは、各課程やコースが入学時に行われるガイダンスや各授業の中で学部や課程の理念や目標について丁寧に説明する機会を設けていることによるところが大きいと考えられる。

しかしながら、学校教育課程、地域科学課程も、そのカリキュラムの構成原理や身に付けるべき能力や達成すべき目標を様々な形で明文化して学生に示していることを考えると、8割弱の理解しか得られていない現状は問題であるといえる。カリキュラム・ポリシーやスタンダードなど明文化されたもの自体が学生にとってわかりやすいものになっているのかという点を省察する必要がある。

#### (3) 各学年で履修する科目に関する理解、(7) 必修・選択科目に関する理解

両項目共に、昨年度とあまり変容のない結果となっている。項目3に関しては、理解していない学生の割合は昨年と同様12%、項目7では11%→14%と増加している。

こうした履修の順序や履修要件に関する理解は、受講する姿勢や目的意識に深く関係しており、理解できていない学生の学習効果の低下が懸念される。入学時のガイダンスだけでは不十分であるため、各課程やコースにおいて、各学年でその都度理解を深める機会を設けるとともに、助言教員を中心に理解の低い学生には個人的に説明する機会を設けていくことが必要である。

#### (4) シラバスの使い方の理解、(5) シラバスの活用実態

シラバスの使い方に関する理解は昨年と同様88%の学生が理解している実態があり、シラバス自体の存在については認知されているといえる。しかしながら、実際に活用しているかどうかという点になると18%の学生はあまり活用しておらず、5%の学生は全く活用していない実態がある。これは、受講に際して対象となる授業内容を理解しないまま受講している学生が2割以上存在していることを表している。

受講登録の際にシラバスを活用しやすいようにウェブ上で情報を分かりやすく提供

することやシラバスそのものを学部の様々な場所に置いて活用を促す、シラバスがいつでも閲覧できるような場所を開設するなど、受講登録時に学生の意識をシラバスに向ける工夫が必要である。

#### **(6) 卒業要件の理解、(16) 教育実習の着手条件の理解**

両項目共に昨年度とほとんど変わらない実態がある。卒業要件については、89%の学生が理解しており、教育実習の着手条件については56%の学生しか理解していない。

これは、昨年の分析においても指摘したことではあるが、こういった点に関する理解のなさが、卒業できなかつたり、教育実習に着手できなかつたりする事態を招いているわけではないという現実がある。これは教務課の手厚いサポートがあるからなのであるが、一方でそれ故に学生は自分でこういったことを理解しようとしない。留年を回避するためのセーフティーネットを教務課が担っていることをいいことに教員側にもこうした点に関する無関心と理解のなさが有ることが問題である。教育実習、教員免許、卒業要件などに関する理解を深める機会を教員も学生も持つ必要がある。

#### **(8) 履修登録の方法に関する理解、(9) 欠席や追試の手続きに関する理解**

履修方法については昨年同様にほぼすべての学生が理解している。これに対して、欠席や追試などの手続きに関する理解は昨年同様低い実態がある。過半数の学生は、欠席や追試の方法に関する理解がない。多くの授業では、1回休むと一つのトピックがまるごと学習できない場合があるため、学生の欠席情報がない場合、プリントを渡したり、補習をするなど教師側の対応が学生に届かない可能性が高い。また、グループワークなどを中心にした授業でも、一回休むとグループの他のメンバーに迷惑がかかり、そのうち授業に出られなくなる原因を生むことも有る。欠席はやむを得ない場合も多いが、きちんとした手続きを取ることが欠席の抑止につながることも考えておく必要がある。

#### **(10) オフィスアワーの理解、(11) オフィスアワーの活用**

オフィスアワーに関する項目群は昨年度に比べ、やや向上している。項目10については、68%→73%と5%上昇している。項目11についても、15%→20%と5%向上している。しかし実態としては、昨年同様に満足できるものではない。周知についても、利用についても、授業に欠席しがちであったり、孤立していたりする学生たちのセーフティーネットとして機能できていないことが指摘できる。

また、教官と直接、対面コミュニケーションが苦手な学生も増えており、教員と学生の間人関係を構築することが難しい場合も増えている。メールなど間接的なコミュニケ

ーションによって学生の悩みや考えを聞く場を設けていくことも必要である。

#### **(12) 卒業後の展望や目的、(13) 将来設計に役立つカリキュラム**

学校教育課程、地域科学課程それぞれに卒業後の進路は異なっているものの、26%の学生が卒業後の進路に展望が持てていない実態は深刻である。同様に、カリキュラムに対する有用感を感じていない学生も24%存在している。実数にすると80人前後の学生がそう感じている。特に学校教育課程は教員になることが卒業後の進路であり、そのためのカリキュラムが設けられている。教育実習前後で教師になることを諦める学生やなることを望まない学生が少なからず出てくるが、こうした学生が進路変更する機会は設けられていない。地域科学課程がこうした学生の逃げ場になることは避けなければならないが、肯定的に自らの進路を変更できるような機会を設けていく必要があると指摘できる実態がある。地域科学課程の学生にも教員免許を取る機会を設けるなど両課程のカリキュラム上での交流は進んできているが、問題は学校教育課程の学生の中に授業の受けていくにつれて「教師になりたくない」と感じる学生が増加している点に有る。

#### **(14) 授業の前後の自主学習に関する理解**

本年度新設された項目であるが、93%の学生が授業の前後に自主学習が必要であることを理解している。来年度はぜひ、自主学習をしているかどうかという点とどのような学習をしているかという点を把握してほしい。

つまり、知っているかと問われると知っていると答えるが、問題は実際に自主学習をやっているかどうかという点とどのような学習を行っているかという点が問題なのである。レポートや課題などを出す教員も多く、学生の自主学習を促す工夫をしている実態があるがそれは自主学習ではなく、与えられた課題をこなしているに過ぎない。授業の中で学生自身が自分の理解度を意識できるような学習場面を設けるとか、課題を出すにしても、学生自身が自分で決めたり考えたりする部分を含む課題を出すなど、学生の主体性を向上させる工夫が必要である。

#### **【自由記述に関する考察】**

昨年と同様に、カリキュラムが密になりすぎていて、履修上バッティングしたり、自主学習の時間が確保できないなどの問題点を指摘する学生がいる。クォーター制などの取り組みを進めていくことになっているが、学習の密度を高める工夫によってこうした問題が解消できるかどうか。

また、カリキュラムの内容について、以下の二点の指摘が学生からなされていることを

指摘しておく。

- ・ 他の大学に比べて教科専門の先生の数少なく専門性を高めることに不安を感じる。
- ・ 教職科目の必修の授業にもかかわらず、教員採用試験に必要な教育原理や教育心理などを扱わないのは疑問を感じる。

学生たちの間でも、教員配置のレベルや授業内容のレベルに至るまで、他大学との相対化が進められており、こうした情報が彼らの後輩や高校へ流れていく可能性も高いといえる。独創的な教員配置や授業内容へ急進的に傾斜するだけでなく、他大学と比較されても学生が充実感を感じられるような確実性の高い教員配置や授業内容の構築が必要である。

#### 【全体の考察】

昨年度と比較して、おおよそどの項目もそれほど変化していない実態を捉えている。カリキュラムに関する問題が恒常的に存在しているし、その解決にもまた時間がかかる上に多様な手段でじっくり解消すべきであることを示唆している。

二年連続して、教育地域科学部では回答率が過半数を下回っていることを考えると、今回回答していない 400 人弱の学生たちの声は、おそらく肯定的な意見ではないのだということを考える必要がある。シラバスの利用にしても、カリキュラムに関する有用性にしても、おそらく分析で得られた実態をはるかに超える深刻な実態があるのではないだろうか。これは、アンケートそのものに対する飽和感と不信感が有るのだと考えられる。報告書の作成のためのエビデンスを得るために、たくさんのアンケートを学生に強いている現実が有る。また、アンケートだけではなく、学部長懇談会などでも学生の意見を把握しているが、なかなか授業内容や方法が改善されない教師への不信感もある。

このアンケートもどのようにして学生たちに結果を還元していくのかという議論を深め、学生たちがカリキュラムや授業について意見を出す場として形作っていかねばならない。

**【教育地域科学部】**

アンケート実施期間: 2013/09/18(水)~2013/10/31(木)

対象人数: 711人 回答人数: 328人 回答率: 46.1%

**(1) 学部の理念や目標を理解している。**

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

理解している	45人
だいたい理解している	206人
あまり理解していない	70人
理解していない	7人



**(2) 課程の教育理念や目標を理解している。**

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

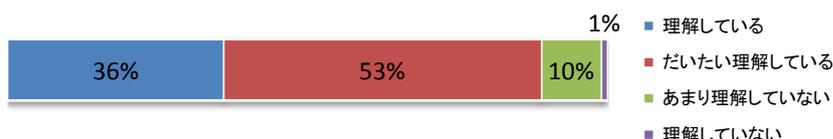
理解している	47人
だいたい理解している	217人
あまり理解していない	57人
理解していない	7人



**(3) 4年間を通じ各学年でどのような科目を履修しなければならないか理解している。**

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

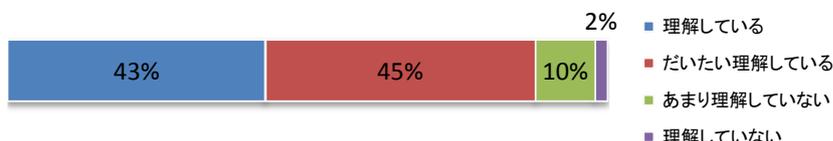
理解している	119人
だいたい理解している	173人
あまり理解していない	32人
理解していない	3人



**(4) シラバスの使い方を理解している。**

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

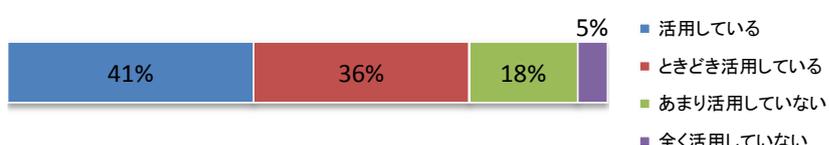
理解している	139人
だいたい理解している	147人
あまり理解していない	34人
理解していない	6人



**(5) シラバスを活用している。**

・活用している ・ときどき活用している ・あまり活用していない ・全く活用していない

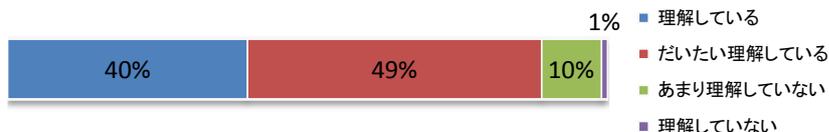
活用している	134人
ときどき活用している	118人
あまり活用していない	59人
全く活用していない	17人



**(6) 卒業要件を理解している。**

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

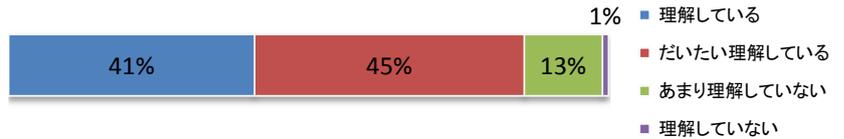
理解している	130人
だいたい理解している	161人
あまり理解していない	34人
理解していない	2人



(7) 必修科目、選択必修科目、選択科目の区分を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

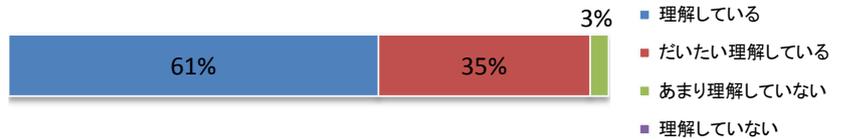
理解している	135人
だいたい理解している	148人
あまり理解していない	41人
理解していない	2人



(8) 履修登録の方法を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

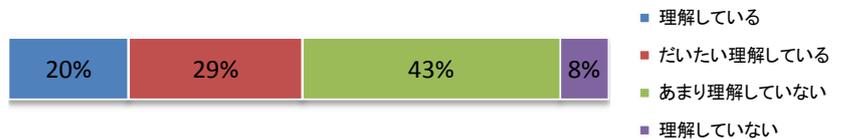
理解している	198人
だいたい理解している	114人
あまり理解していない	10人
理解していない	1人



(9) 授業を欠席する際や再試・追試を願い出る際の手続きを理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

理解している	65人
だいたい理解している	94人
あまり理解していない	140人
理解していない	26人



(10) オフィスアワーの存在を知っている。

・知っている ・知らない

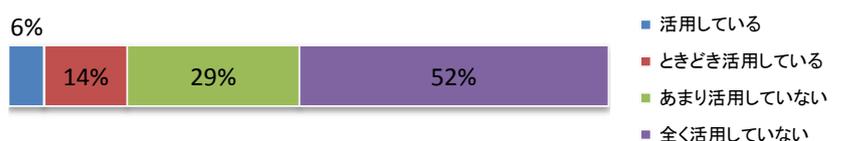
知っている	238人
知らない	86人



(11) オフィスアワーを活用している。

・活用している ・ときどき活用している ・あまり活用していない ・全く活用していない

活用している	18人
ときどき活用している	44人
あまり活用していない	95人
全く活用していない	168人



(12) 卒業後の具体的な将来展望・目的意識を持っている。

・持っている ・だいたい持っている ・あまり持っていない ・全く持っていない

持っている	86人
だいたい持っている	155人
あまり持っていない	74人
全く持っていない	10人



(13) 課程のカリキュラムが自身の将来設計に役立っている。

・役立っている ・まあ役立っている ・あまり役立っていない ・全く役立っていない

役立っている	62人
まあ役立っている	186人
あまり役立っていない	74人
全く役立っていない	4人



(14)授業の前後に自主学習が必要であることを知っている。

・知っている ・知らない

知っている	301人
知らない	23人



■ 知っている  
■ 知らない

(15) カリキュラム全般に関する意見・要望を自由に書いてください。【自由記述:300字以内】

(16) 教育実習の着手条件を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

理解している	84人
だいたい理解している	92人
あまり理解していない	71人
理解していない	68人



■ 理解している  
■ だいたい理解している  
■ あまり理解していない  
■ 理解していない

アンケート実施期間: 2013/10/31(木) 00:00~2013/10/31(木) 23:59

回答者には以下のイメージで表示されます。

### 2013カリキュラム評価アンケート(教育地域科学部用)

この調査は、みなさんが授業等を受講するにあたって理解していること、考えていること等について調査することを目的としています。あなたが理解、考えている程度に応じてチェックして下さい。

(全ての項目にチェックした後、画面右下の「回答」ボタンをクリックしてください。)

アンケート実施主体: 福井大学高等教育推進センター

1. 学部の理念や目標を理解している。

- ・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

2. 課程の教育理念や目標を理解している。

- ・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

3. 4年間を通じ各学年でどのような科目を履修しなければならないか理解している。

- ・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

4. シラバスの使い方を理解している。

- ・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

5. シラバスを活用している。

- ・活用している  ・ときどき活用している  ・あまり活用していない  ・全く活用していない

6. 卒業要件を理解している。

- ・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

7. 必修科目、選択必修科目、選択科目の区分を理解している。

- ・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

8. 履修登録の方法を理解している。

- ・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

9. 授業を欠席する際や再試験・追試験を願い出際の手続きを理解している。

- ・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

10. オフィスアワーの存在を知っている。

- ・知っている  ・知らない

11. オフィスアワーを活用している。

- ・活用している  ・ときどき活用している  ・あまり活用していない  ・全く活用していない

12. 卒業後の具体的な将来展望・目的意識を持っている。

- ・持っている  ・だいたい持っている  ・あまり持っていない  ・全く持っていない

13. 課程のカリキュラムが自身の将来設計に役立っている。

- ・役立っている  ・まあ役立っている  ・あまり役立っていない  ・全く役立っていない

14. 授業の前後に自主学習が必要であることを知っている。

- ・知っている  ・知らない

15. カリキュラム全般に関する意見・要望を自由に書いてください。

16. 教育実習の着手条件を理解している。

- ・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

福井大学高等教育推進センター

事務担当:学務部教務課

小林 誠巳(0776-27-8400)内線2102

e-mail gkyomu-am@ad.u-fukui.ac.jp

回答

## アンケート結果詳細参照

取消

## 学生

- ・必修科目(専門科目)に必修科目(英語)が重なり、実質指定された学年より前に専門科目を“先取り”しないといけないような授業があるのは少々納得がいかない。
- ・5限を減らしてほしい。
- ・授業の前後に自主学習が必要であり、なおかつ専門の科目では時間外の取り組みがかなり多く必要な科目があるにもかかわらず、カリキュラムの内容が多すぎる。(必要単位が多すぎる。)そのため、どの科目も中途半端な取り組みしか出来ず、自分の力として定着しない。
- ・文学部など他学部にも勝てるカリキュラムにしていきたい。
- ・臨床教育科目の専門の授業と理科(化学)の専門の授業が重なることが多いのをどうにかしてほしいです。理科は、実験などで3コマ使ったり2コマ使ったりすることが多いので、被りやすいため、少しは配慮してほしい。
- ・特になし
- ・とらなければならない授業数が多すぎる
- ・専門科目が増えるといい
- ・特にない
- ・教科専門の教員の数が少なすぎる。(他大学と比較してみれば、文学の教員が1人だけなんてあり得ない。)
- ・教職科目の必修授業で、教員採用試験に対応できるような教育原理や教育心理をまともに扱わないのは疑問。

## カリキュラム評価アンケート結果に関するコメント

三上俊介

・アンケートの回収率は医学科 62%, 看護学科 69%であり、回答を寄せてくれた学生のうちでは肯定的回答の割合が総じて高い。なかでも看護学科においてはその傾向が特に強かった。

### (1),(2) 学部・学科の教育理念・目標の理解

医学科学生にとって、所属組織としては学部よりは学科の方がより身近に感じるということなのか、(2) に対する肯定的回答（理解、だいたい理解）は (1) に対するそれより 5 ポイント高く 73%であった。前回（H24）は(2) が(1)より 7 ポイント高く、数値は今回と同じ 73%であった。

看護学科も前回は同様の傾向があったが、今回は (1),(2) とともに差がなく 90%近くに上昇した。

### (4),(5) シラバス使用法の理解とその活用

看護学科ではシラバスの活用がときどきを含めて 97% と非常に高い。学生が前向きに講義・実習に取り組もうとしている姿勢の表れであろう。

医学科では理解(75%)と活用(52%)の間に乖離が見られる。可能ならばシラバス活用の具体についてのより詳しい調査結果を知りたいところである。

### (3),(6),(7) カリキュラム、卒業要件および必修・選択必修・選択の区分に関する理解

(3),(7) に関しては両学科ともに理解割合が高い(医学科 88%, 87%, 看護学科 97%,97%)。

(6) に関しては看護学科の 93%に対し、医学科は 71% に止まった。医学科の場合 3 年次生のみが回答しており、専門教育課程において履修科目に選択の余地がほとんどないことが影響していると推察する。

### (9) 欠席届、追試験願に関する手続き

松岡では今年（H25）より出席管理システムが稼働しているが、(9)に対する回答において数字としては前回とあまり変わっていない（医学科 62%, 看護学科 78%）。追試験と欠席届を同時に尋ねているので、追試験に関しては数値として低くなってしまおうということはないだろうか。

### (10),(11) オフィスアワーの認知と活用

前回の調査と比較すると、肯定的回答（理解、だいたい理解、活用している、時々活用し

ている)の割合が、認知に関しては医学科では横ばい(59% → 57%),看護学科では10ポイント上昇(66% → 76%),活用に関しては医学科では9ポイント減少(32% → 23%),看護学科では8ポイント上昇(30% → 38%)と両学科で大きな差がでた。

看護学科では入学時および進級時での取り組みにより改善されているといえるのではないか。医学科の場合、前回と回答者が入れ替わっていることを差し引いても、学科としてオフィスアワー制度の周知とその実効性について今一度考える必要があるのではなかろうか。また質問事項をもう少し丁寧にしてオフィスアワーを活用したいと思っただけできなかったという層がどれくらいいるのかを調べてみたいところである。

#### (12) 卒業後の将来展望・目的意識

アンケート回答時点で、持っていない(あまり持っていないを含む)と回答した割合は看護学科10%,医学科25%である。看護学科は1~4年次生が回答している一方、医学科は6年間の課程の2年半を終了した時点での回答である。看護学科は前回の調査結果と同じ比率であるが、医学科はこの形の質問文への回答は今回が初めてである。

医学科の場合25%という数値は(2),(4),(6)の項目に対し理解していない(あまり理解していないを含む)と回答している比率(さらには(13)での否定的回答の比率)とほぼ同じになっている。可能ならば、これらの4項目の回答の間に関連が有るのか、すなわち学生の中に二極化の傾向が現れているのか、より詳しい分析が望まれる。

#### (13), (14) カリキュラムの将来設計への有用性の認識、単位の実質化に関する理解

看護学科は(13)に対し肯定的回答が93%に昇り、それが(14)での自主学習が欠かせないとの認識(98%)へと導いていると考えられる。医学科では3年前期までを踏まえての回答で、(13)に対しての肯定的回答は75%、また自主学習の必要性の認識は77%に止まった。

【医学部医学科】

アンケート実施期間:2013/11/11(月)~2013/12/6(金)

対象人数:120人 回答人数:74人 回答率:61.6%

(1) 学部の理念や目標を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

理解している	11人
だいたい理解している	39人
あまり理解していない	20人
理解していない	4人



(2) 学科の教育理念や目標を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

理解している	11人
だいたい理解している	43人
あまり理解していない	17人
理解していない	3人



(3) 6年間を通じ各学年でどのような科目を履修しなければならないか理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

理解している	13人
だいたい理解している	51人
あまり理解していない	8人
理解していない	2人



(4) シラバスの使い方を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

理解している	14人
だいたい理解している	42人
あまり理解していない	16人
理解していない	2人



(5) シラバスを活用している。

・活用している ・ときどき活用している ・あまり活用していない ・全く活用していない

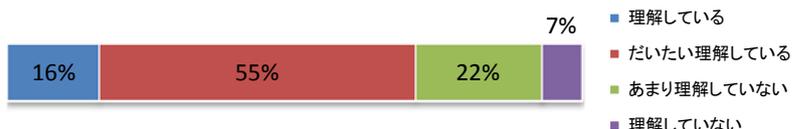
活用している	10人
ときどき活用している	28人
あまり活用していない	29人
全く活用していない	7人



(6) 卒業要件を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

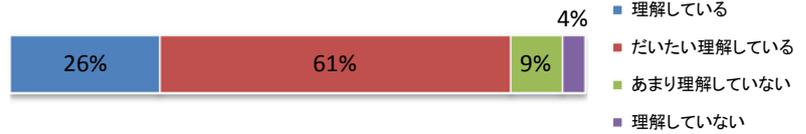
理解している	12人
だいたい理解している	41人
あまり理解していない	16人
理解していない	5人



(7) 必修科目、選択必修科目、選択科目の区分を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

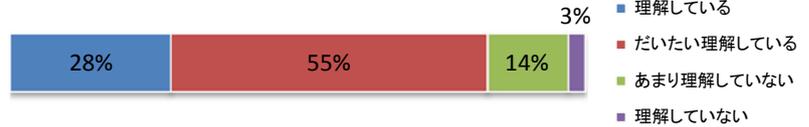
理解している	19人
だいたい理解している	45人
あまり理解していない	7人
理解していない	3人



(8) 履修登録の方法を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

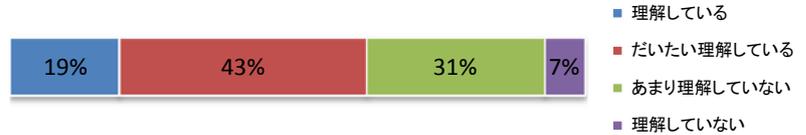
理解している	21人
だいたい理解している	41人
あまり理解していない	10人
理解していない	2人



(9) 授業を欠席する際や再試・追試を願い出る際の手続きを理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

理解している	14人
だいたい理解している	32人
あまり理解していない	23人
理解していない	5人



(10) オフィスアワーの存在を知っている。

・知っている ・知らない

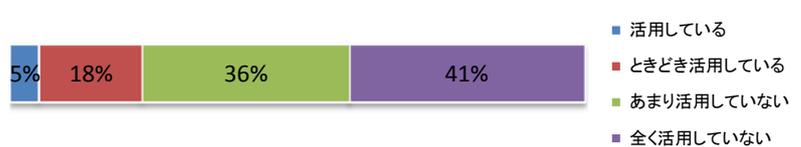
知っている	42人
知らない	32人



(11) オフィスアワーを活用している。

・活用している ・ときどき活用している ・あまり活用していない ・全く活用していない

活用している	4人
ときどき活用している	13人
あまり活用していない	27人
全く活用していない	30人



(12) 卒業後の具体的な将来展望・目的意識を持っている。

・持っている ・だいたい持っている ・あまり持っていない ・全く持っていない

持っている	14人
だいたい持っている	41人
あまり持っていない	18人
全く持っていない	1人



(13) 学科のカリキュラムが自身の将来設計に役立っている。

・役立っている ・おおむね役立っている ・あまり役立っていない ・全く役立っていない

役立っている	10人
おおむね役立っている	45人
あまり役立っていない	15人
全く役立っていない	4人



(14)「単位の実質化」として”授業前後の自主学習(予習・復習)”が学生さんに求められております。

単位を修得するには授業の前後に自主学習が必要であることを知っている。

・知っている ・知らない

知っている	57人
知らない	17人



- 知っている
- 知らない

# カリキュラム評価アンケート(3年次生用)

(平成 25 年 10 月配布)

学籍番号 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_

医学部教育開発推進センターでは、随時点検・評価を通してカリキュラムの修正・改善を加え、皆さんにとってより良い医学教育カリキュラムになるよう努めています。3年次前期までで、いわゆる基礎医学教育カリキュラムが一応終了し、後期から臨床医学を中心とした教育カリキュラムが始まります。

そこで、皆さんが履修してきた基礎医学教育カリキュラム全体の企画・実施に対するご意見を聴取したいと思いますので、以下の項目に答えてください。このアンケート結果は統計処理され、皆さんの個人名は明らかにされることはありませんので、率直なご意見をお寄せ下さい。なお、アンケート結果はカリキュラムの改善のための基礎資料以外の目的には使用しません。

選択肢のある項目では該当する答えの番号を右欄の( )に記入してください。

## まず、あなた自身についてお尋ねします。

(1)あなたの履修状況についてお聞きします

①カリキュラム全体を自らすすんで履修しましたか？

1. 非常に積極的 2. 積極的 3. どちらともいえない 4. 消極的 5. 非常に消極的

( )

②カリキュラム全体の学習内容を十分に消化できましたか？

1. 十分できた 2. できた 3. どちらともいえない 4. できなかった 5. 全くできなかった

( )

③学習内容を消化・理解するための学習時間は十分に使いましたか？

1. 非常に十分 2. 十分 3. どちらともいえない 4. 十分でない 5. 全く十分でない

( )

④学習時間につきまして、普段の講義の予習・復習、さらに自主的な学習(必ずしも講義とは関連しない自発的な課題への取り組みなど)に1日当たりどのくらい時間数を使っていますか？休日も含めて平均した1日の学習時間数を具体的にお答えください。 普段( )時間/日 試験前( )時間/日

(2)上の三つの問いで4または5と答えた方は、①なぜ消極的だったのか？②学習内容のどのような点が消化できなかったのか？③なぜ十分使えなかったのか？それぞれに具体的にお答えください。

【①なぜ消極的だったのか？】

【②学習内容のどのような点が消化できなかったのか？】

【③なぜ十分使えなかったのか？】

- (3)あなたのこの期間における履修状況を自己評価してください  
1. 非常に評価できる 2. 評価できる 3. どちらともいえない 4. 改善の余地がある  
5. 大いに改善の余地がある ( )

**次に、3年次前期のカリキュラムについてお尋ねします。**

- (4)3年次前期のカリキュラム全体の構成はいかがでしたか？  
1. 非常に良い 2. 良い 3. 普通 4. あまり良くない 5. 良くない ( )

(5)4または5と答えた方はどの点が良くなかったか具体的にお書き下さい

- (6)全体として、科目数はいかがでしたか？  
1. 非常に多すぎる 2. 多すぎる 3. 普通 4. 少なすぎる 5. 非常に少なすぎる ( )

(7)履修した科目の中で、時間数(コマ数)が多すぎたもの、少なすぎたものがあれば科目名をお書き下さい。  
(複数の科目名を記入可)

【多すぎたもの】

【少なすぎたもの】

- (8)全体として、講義と実習のバランスはいかがでしたか？  
1. 非常に良い 2. 良い 3. どちらともいえない 4. あまり良くない 5. 良くない ( )

(9)4または5と答えた方はどのような点が良くなかったのか具体的にお答えください

- (10)試験(試験の時期や再試の実施状況など)は適切に行われていましたか？  
1. 非常に適切 2. 適切 3. どちらともいえない 4. あまり適切でない 5. 適切でない ( )

(11)4または5と答えた方はどのように試験を実施すればよいと思いますか？

- (12)3年次前期のカリキュラムと1・2年次生で履修したカリキュラムとの連携は適切でしたか？  
1. 非常に適切 2. 適切 3. どちらともいえない 4. あまり適切でない 5. 適切でない ( )

(13)4または5と答えた方は(1・2年次のカリキュラムの編成など)どのように改善したらよいと思いますか？

(14)アドバンスコースを含め前期で履修して特に興味深い、または学習意欲が増した科目があれば科目名をお答え下さい

**次に、アドバンストコースについてお尋ねします。**

(15)アドバンストコースは何科目履修しましたか(履修届けを出した科目数)? ( )科目

(16)履修したアドバンストコースのうち、何科目の単位を取得しましたか(予定を含む?) ( )科目

(17)アドバンストコースの開講科目数・内容は適切でしたか?

1. 非常に適切 2. 適切 3. 普通、 4. あまり適切でない 5. 適切でない ( )

(18)4または5と答えた方はどの点が適切でなかったか具体的にお書き下さい

(19)アドバンストコースを履修して学習意欲、医学や医療に対する意欲が刺激されましたか?

1. 非常にされた 2. された 3. どちらともいえない 4. されない 5. まったくされない ( )

(20)あなたはアドバンストコースを自らすすんで履修しましたか?

1. 非常に積極的 2. 積極的 3. どちらともいえない 4. 消極的 5. 非常に消極的 ( )

(21)上の二つの設問で4または5と答えた方はその理由を具体的にお書き下さい。

(22)アドバンストコースとして開講してほしい学習内容があればその内容をお書き下さい。

(23)他の必修科目との連携、内容など、アドバンストコースに対する要望事項/改善点をお書き下さい。

**次に、研究室配属についてお尋ねします。**

(24)研究室配属について、3週間の配属期間は適切でしたか?

1. 非常に長い 2. 長い 3. どちらともいえない 4. 短い 5. 非常に短い ( )

(25)研究室配属について、開講の時期は適切でしたか?

1. 非常に適切 2. 適切 3. どちらともいえない 4. 適切でない 5. 非常に適切でない ( )

(26)上の二つの設問で4または5と答えた方はどのような配属期間、またはいつの開講時期が適切か具体的にお答え下さい

(27)研究室配属では、教員に熱意が感じられましたか?

1. 非常に感じられた 2. 感じられた 3. どちらともいえない 4. 感じられない 5. まったく感じられない ( )

(28)研究室配属によって研究・学習内容に対する意欲が刺激されましたか？

1. 非常にされた 2. された 3. どちらともいえない 4. されない 5. まったくされない ( )

(29)あなたは研究室配属を自らすすんで取り組みましたか？

1. 非常に積極的 2. 積極的 3. どちらともいえない 4. 消極的 5. 非常に消極的 ( )

(30)上の設問で4または5と答えた方はその理由を具体的にお書き下さい。

(31)研究室配属に対する要望事項/改善点などがありましたら自由にお書き下さい

**次に、2年次・3年次に履修した基礎医学教育カリキュラム全体についてお尋ねします。**

(32)2年次・3年次前期における基礎医学教育カリキュラム全体(科目構成、開講時期など)は基礎医学を学ぶ上で適切なものでしたか？

1. 非常に適切 2. 適切 3. どちらともいえない 4. 適切でない 5. 非常に適切でない ( )

(33)4または5を答えた方はなぜ適切でないのか具体的な理由をお答えください。さらに、それをふまえた改善点があればお答え下さい。

(34)現時点で振り返ってみて1・2年次のカリキュラムで履修したかった、あるいは追加してほしい科目・学習内容がありましたら、具体的にお答え下さい。また時間数(コマ数)が少なすぎた科目がありましたら、お答え下さい。

(35)これまでのカリキュラムを履修して医学・医療に対する興味または3年次後期以降の臨床医学教育カリキュラムに対する履修意欲が増しましたか？

1. 非常に増した 2. 増した 3. どちらともいえない 4. 減った 5. 非常に減った ( )

(36)4または5を答えた方はなぜ減ったのか具体的な理由をお答えください

(37)臨床医学教育カリキュラムを4年次から開講する大学もありますが、本学は3年次後期から開講します。このことについてどのように考えますか？

①本学の開講の時期は、

1. 早すぎる 2. 早い 3. 適当 4. 遅い 5. 遅すぎる

( )

②適当でない場合は適していると思う時期をお答え下さい

### 本学医学教育の達成目標についてお尋ねします。

医学部では、

- ①幅広い医学知識を持ち、質の高い臨床能力を身に付け
- ②コミュニケーション能力に優れ、高い倫理観をもって患者中心の医療を実践でき
- ③日々進歩する医学知識・医療技術を生涯にわたり学ぶ習慣を身につけ、根拠に立脚した医療を実践できる医療人を育成し、
- ④世界をリードする生命科学研究者や医学教育者となりうる人や、
- ⑤個人と地域・国際社会の健康増進と疾病の予防・根絶に寄与し、国際的な視野でまたは地域に根ざした活動ができる人を育成することを教育目標としています。

(38)そこで、これまでのカリキュラムの履修状況から考えて、今後のカリキュラムを適切に履修すれば以下の事項が卒業時点で修得できると思いますか？

38-1. 医学知識

1. 非常にそう思う 2. そう思う 3. 普通 4. あまりそう思わない 5. そう思わない

( )

38-2. 臨床能力

1. 非常にそう思う 2. そう思う 3. 普通 4. あまりそう思わない 5. そう思わない

( )

38-3. コミュニケーション能力

1. 非常にそう思う 2. そう思う 3. 普通 4. あまりそう思わない 5. そう思わない

( )

38-4. 高い倫理観

1. 非常にそう思う 2. そう思う 3. 普通 4. あまりそう思わない 5. そう思わない

( )

38-5. 学ぶ習慣

1. 非常にそう思う 2. そう思う 3. 普通 4. あまりそう思わない 5. そう思わない

( )

38-6. 根拠に立脚した実践的医療能力

1. 非常にそう思う 2. そう思う 3. 普通 4. あまりそう思わない 5. そう思わない

( )

(39)各項目で「あまりそう思わない」および「そう思わない」と答えた方は、どのような理由で修得できなかったのか具体的にお答え下さい。また、それをふまえた改善点があればお教え下さい。

(40)基礎医学教育カリキュラムに対する要望事項など自由な感想をお書き下さい

**全学共通のアンケート項目についてお尋ねします。**

(41) 学部の理念や目標を理解している。

1. 理解している 2. だいたい理解している 3. あまり理解していない 4. 理解していない ( )

(42) 学科の教育理念や目標を理解している。

1. 理解している 2. だいたい理解している 3. あまり理解していない 4. 理解していない ( )

(43) 6年間を通じ各学年でどのような科目を履修しなければならないか理解している。

1. 理解している 2. だいたい理解している 3. あまり理解していない 4. 理解していない ( )

(44) シラバスの使い方を理解している。

1. 理解している 2. だいたい理解している 3. あまり理解していない 4. 理解していない ( )

(45) シラバスを活用している。

1. 理解している 2. だいたい理解している 3. あまり理解していない 4. 理解していない ( )

(46) 卒業要件を理解している。

1. 理解している 2. だいたい理解している 3. あまり理解していない 4. 理解していない ( )

(47) 必修科目, 選択必修科目, 選択科目の区分を理解している。

1. 理解している 2. だいたい理解している 3. あまり理解していない 4. 理解していない ( )

(48) 履修登録の方法を理解している。

1. 理解している 2. だいたい理解している 3. あまり理解していない 4. 理解していない ( )

(49) 授業を欠席する際や再試・追試を願い出る際の手続きを理解している。

1. 理解している 2. だいたい理解している 3. あまり理解していない 4. 理解していない ( )

(50) オフィスアワーの存在を知っている。

1. 理解している 2. だいたい理解している 3. あまり理解していない 4. 理解していない ( )

(51) オフィスアワーを活用している。

1. 理解している 2. だいたい理解している 3. あまり理解していない 4. 理解していない ( )

(52) 授業を受けて将来の方向性がみえるようになった。

1. 理解している 2. だいたい理解している 3. あまり理解していない 4. 理解していない ( )

(53) 授業の前後に自主学習が必要であることを知っている。

1. 知っている 2. 知らない ( )

**(協力ありがとうございました。記入後、アンケート回収箱に投函してください)**



**【医学部看護学科】**

アンケート実施期間:2013/10/1(火)~2013/10/31(木)

対象人数: 258人 回答人数: 177人 回答率: 68.6%

**(1) 学部の理念や目標を理解している。**

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

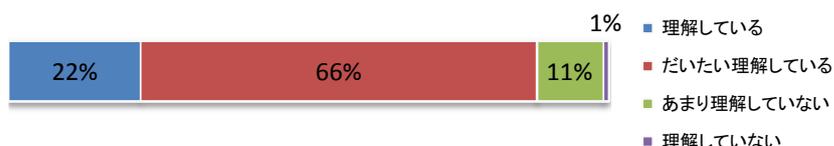
理解している	36人
だいたい理解している	118人
あまり理解していない	21人
理解していない	2人



**(2) 学科の教育理念や目標を理解している。**

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

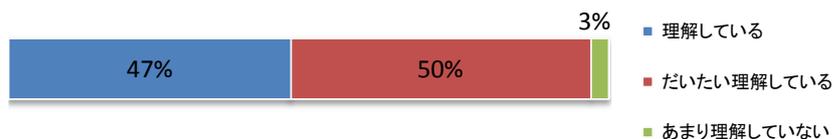
理解している	39人
だいたい理解している	116人
あまり理解していない	19人
理解していない	2人



**(3) 4年間を通じ各学年でどのような科目を履修しなければならないか理解している。**

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

理解している	84人
だいたい理解している	88人
あまり理解していない	5人
理解していない	0人



**(4) シラバスの使い方を理解している。**

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

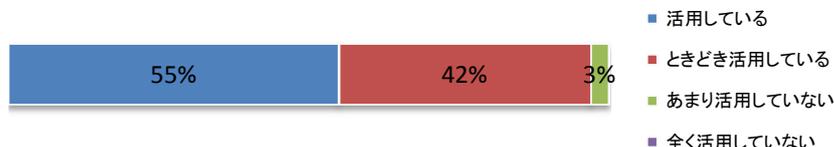
理解している	103人
だいたい理解している	71人
あまり理解していない	2人
理解していない	0人



**(5) シラバスを活用している。**

・活用している ・ときどき活用している ・あまり活用していない ・全く活用していない

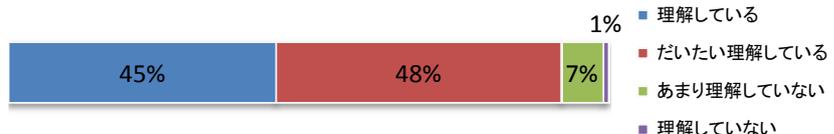
活用している	97人
ときどき活用している	74人
あまり活用していない	5人
全く活用していない	0人



**(6) 卒業要件を理解している。**

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

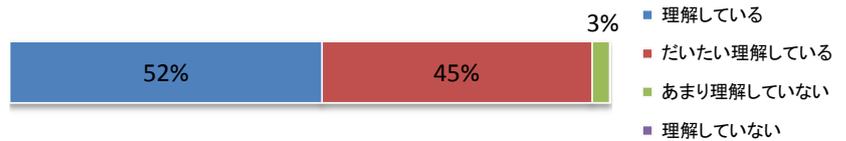
理解している	77人
だいたい理解している	82人
あまり理解していない	12人
理解していない	1人



(7) 必修科目、選択必修科目、選択科目の区分を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

理解している	90人
だいたい理解している	79人
あまり理解していない	5人
理解していない	0人



(8) 履修登録の方法を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

理解している	126人
だいたい理解している	48人
あまり理解していない	0人
理解していない	0人



(9) 授業を欠席する際や再試・追試を願い出る際の手続きを理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

理解している	59人
だいたい理解している	77人
あまり理解していない	33人
理解していない	7人



(10) オフィスアワーの存在を知っている。

・知っている ・知らない

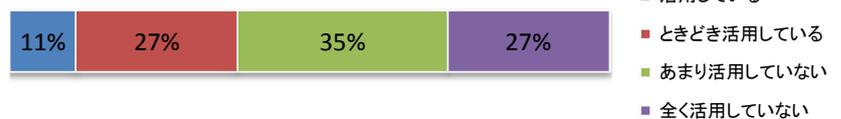
知っている	133人
知らない	42人



(11) オフィスアワーを活用している。

・活用している ・ときどき活用している ・あまり活用していない ・全く活用していない

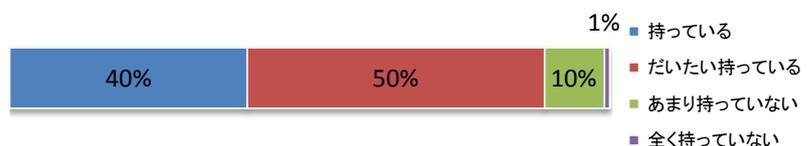
活用している	20人
ときどき活用している	48人
あまり活用していない	61人
全く活用していない	47人



(12) 卒業後の具体的な将来展望・目的意識を持っている。

・持っている ・だいたい持っている ・あまり持っていない ・全く持っていない

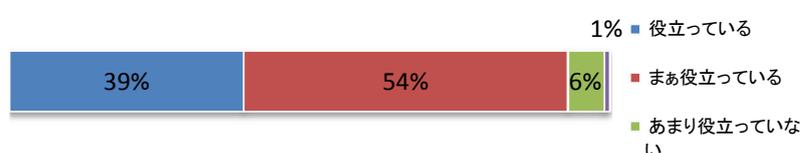
持っている	71人
だいたい持っている	88人
あまり持っていない	17人
全く持っていない	1人



(13) 学科のカリキュラムが自身の将来設計に役立っている。

・役立っている ・まあ役立っている ・あまり役立っていない ・全く役立っていない

役立っている	69人
まあ役立っている	96人
あまり役立っていない	10人
全く役立っていない	2人



(14) 授業の前後に自主学習が必要であることを知っている。

・知っている ・知らない

知っている	173人
知らない	3人



(15) カリキュラム全般に関する意見・要望を自由に書いてください。【自由記述:300字以内】

アンケート実施期間: 2013/10/31(木) 00:00~2013/10/31(木) 23:59

回答者には以下のイメージで表示されます。

### 2013カリキュラム評価アンケート(看護学科用)

この調査は、みなさんが授業等を受講するにあたって理解していること、考えていること等について調査することを目的としています。あなたが理解、考えている程度に応じてチェックして下さい。

(全ての項目にチェックした後、画面右下の「回答」ボタンをクリックしてください。)

アンケート実施主体: 福井大学高等教育推進センター

1. 学部の理念や目標を理解している。

- ・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

2. 学科の教育理念や目標を理解している。

- ・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

3. 4年間を通じ各学年でどのような科目を履修しなければならないか理解している。

- ・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

4. シラバスの使い方を理解している。

- ・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

5. シラバスを活用している。

- ・活用している  ・ときどき活用している  ・あまり活用していない  ・全く活用していない

6. 卒業要件を理解している。

- ・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

7. 必修科目、選択必修科目、選択科目の区分を理解している。

- ・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

8. 履修登録の方法を理解している。

- ・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

9. 授業を欠席する際や再試験・追試験を願い出の際の手続きを理解している。

- ・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

10. オフィスアワーの存在を知っている。

- ・知っている  ・知らない

11. オフィスアワーを活用している。

- ・活用している  ・ときどき活用している  ・あまり活用していない  ・全く活用していない

12. 卒業後の具体的な将来展望・目的意識を持っている。

- ・持っている  ・だいたい持っている  ・あまり持っていない  ・全く持っていない

13. 学科のカリキュラムが自身の将来設計に役立っている。

- ・役立っている  ・まあ役立っている  ・あまり役立っていない  ・全く役立っていない

14. 授業の前後に自主学習が必要であることを知っている。

- ・知っている  ・知らない

15. カリキュラム全般に関する意見・要望を自由に書いてください。【自由記述: 300字以内】

福井大学高等教育推進センター

事務担当: 松岡 教務第二係 廣田 龍彰(0776-61-8214)内線2142 e-mail gmtigaku-2k@ad.u-fukui.ac.jp  
文京 教務課 小林 誠巳(0776-27-8400)内線2102 e-mail gkyomu-am@ad.u-fukui.ac.jp

回答

## アンケート結果詳細参照

取消

## 学生

・将来、看護師になるにあたって必要な知識、技術を学ぶことができるカリキュラムがあるのはとても役に立ち、勉強になった。また一見、看護に関係していないような講義もそれに対する自分の興味意欲がわき、話を聞いていて面白かった。

○工学部

山田 徳史  
(工学研究科)

**(1), (2) 学部の理念・目標を理解している:77%, 学科の理念・目標を理解している:76%**

理解していると答えた回答者の割合が昨年度から向上して8割近くになり、良好な結果と判断する。特に(1)については昨年度から8%向上した。良好な結果となった要因として以下の可能性を指摘したい。(i)入学時の全学的オリエンテーションや各学科での履修指導によって周知が進んだ。(ii)受験生が志望校を決定する過程で理念や目標を確認した(受験情報誌の中で、受験生に対して学部・学科の理念や目標を確認するように勧めている例があり、志望校決定の際に理念・目標を確認することが一般的になりつつあるのかもしれない)。なお、良好な結果とは言え、昨年度掲げた「80%程度以上の理解度を当面の目標とする」には若干及ばず、その達成のためには学生の理解を一層高める努力を継続することが必要である。最近では病院のロビーにその理念や目標を掲示しているのをよく目にする。昨年の報告書でも提案されていたが、学生が頻繁に目にする場所に、学部・学科の理念や目標を掲示してはどうだろうか。

**(3) 各学年でどのような科目を履修しなければならないか理解している:84%**

昨年度と変わらない結果である。8割以上の回答者が理解しており、良好な結果であると判断する。学生にとっては理念や目標よりも身近なことであるため(1)や(2)よりも理解度が高いのであろう。もちろん、各学科での履修指導が効果をあげていることの現れでもあろう。学生の理解度を一層高めるための努力を今後も継続することは当然として、そもそも「履修しなければならない科目」の前に「カリキュラム体系」の理解は十分だろうか。カリキュラムマップなどを活用して、理念・目標 → カリキュラム体系 → 科目 の順で学生の理解がスムーズに進むよう、教員側が工夫すべきであろう。

**(4), (5) シラバスの使い方を理解している:90%, シラバスを活用している:79%**

(4)は昨年より4%増加、(5)は5%増加しており、シラバスの使い方の理解が進むとともに、その活用も広がっていることが明らかになった。良い結果・傾向である。工学部では、JABEE 受審を視野に入れてシラバスの整備を進めてきた。個人的な印象ではあるが、書き方のばらつきや、記述不足、シラバスの内容と授業内容・試験内容との乖離は減ってきていると思う。その結果、シラバスの信頼性が高まり、より多くの学生が活用するようになったのではないだろうか。もちろん、全学的なオリエンテーションや各学科の履修指導でシラバスの活用を呼び掛けていることも、この良好な結果につながっていると思う。今後もシラバス内容の充実や活用の呼びかけを継続することは当然として、その際に効果的と思われることをいくつか挙げる。(i) シラバス冊子にカリキュラムマップを記載する。(ii) シラバスの持つ“実利的”な側面(試験での評価ポイントなど学生にとって“切実な”情報を含むこと)を強調する。(iii) シラバスの書き方や内容が適切であるか、定期的にチェックを行う仕組みをつくる。(iv) 昨年度も指摘されていたことであるが、シラバスの利用が進んでいることを教員にもつ

と認識してもらい、シラバスの質の向上につなげる。(v) シラバスシステムの更新にもなって、補足的なPDFファイル(但しおそらく1Mまで)をシラバスに付けられるようになった。それを活用して、予復習の指示など従来のシラバスに書ききれなかった内容を学生に提示する。

**(6), (7) 卒業要件を理解している:87%, 必修・選択必修・選択の科目区分を理解している:87%**

学生にとって切実な事柄であり、約9割の回答者が理解していることは当然であろう。ただし、(6)が昨年とほぼ同じ結果であるのに対し、(7)は「理解している」と「だいたい理解している」を合わせた回答の割合が昨年よりわずかに(3%)低下している。選択必修科目に関して、その意味、対象とする科目の範囲、履修の仕方などが学生に伝わりにくくなっている可能性はないだろうか。

**(8) 履修登録の方法を理解している:95%**

履修登録の方法を理解していない5%の回答者は、どのような学生だろうか。個人的な経験を踏まえて言うと、5%の回答者の中には勉強以前の問題を抱えた学生がいるように思える。助言教員、学科、教務課、学生総合相談室が連携してそうした学生を早目に発見し、本人や保護者に問題点を伝え、その上で大学生活をどのように送るのか話し合うことが必要なケースが5%の中にあるのではないかと。本人が自分の抱える問題を正しく認識しないまま社会に出てしまう(あるいは退学してしまう)ことがあるとすれば、残念なことだと思う。

**(9) 授業を欠席する際や再試・追試を願い出る際の手続きを理解している:54%**

欠席届は機能していないのではないかと。学生も教員もよく知らない。昨年も指摘されていたが、欠席届のあり方について議論が必要である。

**(10), (11) オフィスアワーの存在を知っている:77%, オフィスアワーを活用している:17%**

昨年度から(10)は2%増加し、(11)は3%低下している。知っているが活用していない回答者が多く、その割合が微増する傾向にあるのかもしれない。オフィスアワーが教員ごとにばらばらであり、その上、オフィスアワーに教員室を訪ねても会議等で不在のこともあり、学生にとって活用しにくい面はあると思う。しかし、教員の仕事が増えている状況の中、(都合が付かない場合の代替時間の確保も含め)オフィスアワーを保障することは必ずしも容易ではない。オフィスアワーを設定すること自体が大切なのではなく、学生の教室外学習をアシストする仕組みがあってそれが活用されていればよい、とは思う。しかし、中教審の答申などを踏まえると、オフィスアワーの制度をやめるという選択は難しい。オフィスアワーを「集中」させることが一つの方策かもしれない。例えば、学科の時間割の中に1年生から3年生まで授業のない時間を設け(例えば、火曜日5限はどの学年も授業がないというような)、その時間をオフィスアワーに設定して学生が来室しやすくするのである。情報・メディア工学科では、オフィスアワーのためではないが、このような「授業フリー」な時間を設けている。全学年に共通した時間を設けることが難しければ、学年ごとにオフィスアワーの時間帯を集約することでもよいと思う。

#### (12) 卒業後の具体的な将来展望・目的意識を持っている:57%

昨年度とほぼ同じ結果であり、将来展望・目的意識を持ってない回答者が4割以上存在する。そういったことも教育しなければならないのか、と思わないわけではない。しかし、教育制度の最終段階で学ぶ者が将来展望・目的意識を持っていないことは問題であり、その対策も大学の役割になってきていると考えるべきであろう。それに取り組むことが留年や成績不振を減らす近道でもあろう。共通教育も含めて大学での学びによってどのような能力がどのように涵養されるのか、その先にどのような仕事の世界が広がっているのか、などを「専門教育と同程度に熱意を持って」学生に伝える必要があるのではないか。わかりやすく提示するための道具としてカリキュラムマップが思い浮かぶが、科目間の関連や科目とDP・CPとの関連に主眼を置いた従来の(科目を中心とした)カリキュラムマップは、将来展望・目的意識を持たせる目的のためにはやや細かすぎるのかもしれない。カリキュラムマップの背後にあるはずの「能力涵養マップ」が必要なのではないか(能力涵養マップには必ずしも個々の科目が登場する必要はない)。

#### (13) 学科カリキュラムが自身の将来設計に役立っている:72%

これはある意味では「褒められる」結果である。4割以上の回答者が将来展望・目的意識を持っていないのに、カリキュラムが将来設計に役立っていないとした回答者は3割弱にとどまっているからである。もちろん、そう回答する学生の割合を減らす必要はある。そのための提案は(12)で述べたことと重なるので、ここでは繰り返さない。なお、昨年指摘されたことであるが、学生の希望と学科の教育内容とのミスマッチが「役立っていない」とする回答の一因かもしれない。今後のアンケートではなぜ「役立っていない」のかが把握できるよう質問を工夫すべきである。

#### (14) 授業の前後に自主学習が必要であることを知っている:89%

単位の実質化が求められていることを背景に今回新設された質問である。9割近い回答者が「知っている」と答えている。自主学習の必要性はよく周知されていると言える。自主学習時間が非常に少ないことは他の調査からすでにわかっている通りであり、「自主学習が必要であることは知っているがやらない」という予想通りの実態である。学生がしっかりとした将来展望・目的意識を持てば自発的に学習するようになるのであろうが、ここでは「一定時間自主学習させる仕組みの構築」の視点から一つ提案する。まず、各科目で課される課題に「標準学習時間」を設定する。これは、「その課題をこなすのに必要な平均的な時間」であり、とりあえず教員の主観で見積もった時間でよい。標準学習時間の一週間の総和が一定のラインに到達するよう、課題の出し方(量、頻度、タイミングなど)を調整する(学科の多くの教員の協力が必要)。これにより、課題に取り組むことで最低ラインの自主学習時間が自動的にクリアできる。なお、課題の提出の際には実際にかかった時間を記入してもらおうとよい。その結果を分析することにより、教員の主観で見積もった標準学習時間を実際の平均的な学習時間に置き換えていくことができる。

#### (15) カリキュラム全般に関する意見・要望(自由記述)

「特になし」以外のコメントを書いた者が 21 名いた(回答者に占める割合は 21/882=2.4%)。以下、内容別に示し検討する。なお、括弧内の数字は意見の件数である(3 件の意見を書いた学生が 1 名いた他は、1 人 1 件の意見)。

##### 共通教育について (4 件)

定員を設けないでほしい(1)、5 分野のどれかに偏った履修も認めてほしい(1)、高学年になると希望に沿った履修が難しくなる(1)、共通教育より専門教育にもっと時間を割きたい(1)

##### 教育内容・カリキュラムについて(13 件)

講義の選択の幅を広げて欲しい(1)、座学だけでなく実技も必要(1)、不要な教科が多い(1)、内容が難しすぎる(1)、よりコミュニケーション能力を高める内容を希望(1)、科目の難易度を揃えてほしい(1)

学びたい内容を学べている(1)、社会に必要な知識を様々な分野から学べる(1)、学科のカリキュラムが充実しており将来のためになっている(1)、グループで協力して取り組む機能が十分にある(1)、現状でよい(3)

##### 授業の実施方法について (1件)

必修科目を退職者(非常勤講師)が担当し、その上集中講義で実施するのはおかしい(1)

##### シラバスについて (1 件)

教員により書き方が違うので統一してほしい(1)

##### 時間割について (1 件)

授業間の空き時間が長いことがあり不満(1)

##### 試験について (3 件)

全ての科目で再試験を行ってほしい(1)、持ち込み可の科目を増やしてほしい(1)、過去問と違う傾向の出題はしないでほしい(1)

共通教育の履修に関する意見の一部、および非常勤講師の授業に対する意見はもったものである。共通教育については、今後改革に向けた動きが本格化するので、その中で問題の解決に向けて知恵を絞ることになろう。非常勤講師に関しては、数年前まで「基幹科目の非常勤講師による担当は原則として行わない。定年退職し、在任中担当した科目を非常勤講師として継続して担当する場合は、原則として1年の期間とする」という申し合わせがあったが、現在はなくなっている。これにより、定年退職前に担当していた必修科目を定年後に非常勤講師として1年を超えて担当するケースが増えているのかもしれない。教員数が減少しているためやむを得ない面はあるが、学生の質問に対応する時間を確保するなどの配慮は必要であろう。教育内容・カリキュラムに関するコメントは、内容の充実・精選を求めるものと、難度の均一化を求めるものに大別できる。前者に関しては、DP・CPから見てカリキュラムに不十分な点があれば改善すること、およびDP・CPについても社会の要請を踏まえてよりよいものに変えていくことが、その対策となろう。後者に関しては、講義内容・試験内容を複数の教員で検討することが有効かもしれない。シラバスに関しては、科目の特性に

応じてある程度書き方にばらつきが生じるのはやむを得ないが、書き方・内容をチェックする仕組みは必要であろう。時間割の長い空き時間については、様々な事情でやむを得ない面があるのだと思うが、講義時間と空き時間をうまく配置することが学習効果の面のみならず、規則正しい生活リズムの面からも望ましいと思う。試験についてのコメントは、「大学での学びの何たるかを勘違いした学生によるもの」と断じたい一方で、再試験や持ち込みの可・不可のあり方(つまり試験の実施の仕方)について、学科レベルで一度状況を把握し、改善すべき点はないか検討してみてもどうかとも思う(教員の裁量に任せる形から学科全体で責任を持つ形への移行)。

**(16) 卒業研究着手要件を理解している:79%**

低い数値ではないものの、昨年から7%低下している。また、卒業要件の理解度より8%低い。卒業研究着手は学生が超えるべき最初のハードルであり、その「高さ」は全員が正しく理解しておくべきである。各学科での履修指導などを通し、改めて周知を徹底する必要がある。なお、昨年度までの「卒論着手条件」を今年度は正確な表現「卒業研究着手要件」に変更したが、その影響の有無は判断できない。

**(17) 各学期で履修できる専門教育科目の単位数に上限があることを知っている:57%**

学科での履修指導等を通し、周知を徹底する必要がある。その際、キャップ制が導入されている理由も理解してもらうことが大切である。また、昨年も指摘されていたことであるが、キャップ制については、教員に対しても分かりやすい説明が必要であろう。なお、昨年までは「履修単位数に制限があることを知っているか」という質問であったが、今年度は質問の文章をより正確な表現に変更した。

**(18), (19) 学科の学習・教育目標を理解している:75%, 学科で開講されている科目と学科の学習・教育目標との対応を理解している:71%**

昨年度とほぼ同じ結果である。工学部では教育システムの国際的質保障を JABEE 認定によって示すことを考えているが、JABEE 認定を目指すのであればこれらの数字は低いのではないか。これらのことは「理念・目標、DP・CP、カリキュラム体系」と一体的に理解することが大切であり、カリキュラムマップなどを用いて効果的に学生に提示する方法を考えるべきである。

**(20) 上記 18 と 19 について確認したことがある:42%**

何をもって「確認」というのか学生が判断に困った可能性はあるが、(18),(19)に比べかなり低い数字である。「確認」しないでどうやって「理解」したのであろうか。学科における履修指導などを通して周知を徹底することが必要である。また、学生の目に付く場所にカリキュラムマップなどを掲示してはどうだろうか。

**(21) 学科の学習・教育目標と照らして、授業内容は適切である:96%**

(18)で「学科の学習・教育目標を理解している・だいたい理解している」と回答した学生は 655 人だったのに対し、本質問で「学科の学習・教育目標を理解に照らして、授業の内容が適切であった・だいたい適切であった」と回答した学生が 830 人もおり、本質問の「学科の学習・教育目標と照らして」という部分を読み飛ばした学生が少なからずいたことが伺える。昨年までは回答の選択肢が「適切であった」と「適切でなかった」の二つであったが、今年度は「適切であった」、「だいたい適切であった」、「あまり適切でなかった」、「適切でなかった」の四つにした。昨年度は「適切であった」の回答が 92%、今年度は「適切であった」と「だいたい適切であった」の回答をあわせて 96%あった。今回「だいたい適切であった」と回答した者が 76%を占めることから、従来「適切であった」と回答していた学生の多くも、実はいくばくかの「満足できない思い」を持っていたと推測できる。前述のように「学科の学習・教育目標と照らして」を無視して回答したと思われる学生がある程度いるため、「満足できない思い」には、(i)学科の学習・教育目標に照らして満足できない、(ii)学科の学習・教育目標と関係なしとにかく内容に満足できない、の両方があると思われる。(i)に関しては、授業内容や学習・教育目標に足りない点がないかチェックし、必要に応じて改善していく地道な取り組みが大切である。(ii)については、学生の希望と学科の教育内容とのずれが原因とも考えられる。在学生に対しては所属学科で学ぶことの意義を様々な場面で繰り返し伝えること、高校生に対してはアドミッションポリシーを一層明確化することや、高校訪問・オープンキャンパスなどの機会をとらえて各学科の教育内容や求める人材像を丁寧に説明することが必要と思われる。なお、本質問はそもそも(ii)を拾い上げる意図は持っていない。(ii)を拾い上げる質問は別途設けた上で、本質問についてはその意図を徹底するために質問の仕方や回答の選択肢を工夫すべきである。

## (22) 適切でなかった理由(自由記述)

コメントを記載したのは 8 名(回答者の内、記載したのは 8/882=0.9%。(21)で「適切でなかった」、「あまり適切でなかった」と回答した 34 名を母数にとると 8/34=24%)。2つの内容のコメントを書いた学生が 1 人いた他は、1 人 1 つのコメントであった。以下、内容別に示し検討する。括弧内の数字はコメントの件数である。

### 判断できない (3 件)

学習・教育目標を知らない(2)、欠席が多かったので判断できない(1)

### 授業が適切でない (4 件)

シラバスに沿っていない(1)、単位修得は大変だが授業に意味がない(1)、授業が面白くなることを期待する(1)、教員が気分屋で臍負があり、真面目になっていると損をする(1)

### 試験が適切でない (1 件)

適当なテスト体制(1)

### 教員と事務の連携不足 (1 件)

教授と学生科(教務課のことか?)が連携していない(1)

シラバスに沿っていない授業や、教員の臍負については、事実ならば改善されるべきである。適

当なテスト体制や教員と事務の連携不足については、その具体的な内容を知りたいところである。今後のアンケートでは、自由記述についてはできるだけ具体的に記述するよう促す必要がある。

### (23) 成績の評価法は適切であった:93%

(21)と同様に、昨年度までは回答の選択肢が二つだったが、今年度から四択にした。昨年度は「適切であった」が 92%、今年度は「適切であった」が 25%、「だいたい適切であった」が 68%であり、両方を合わせると 93%になることから、大きな問題はないと思われる。ただし、(21)と同様に、従来「適切であった」と回答していた学生の多くが実はいくばくかの満足できない思いを有していたことが伺える。「だいたい適切であった」の割合を減らし、「適切であった」の割合を増やす努力は必要である。そのためのヒントは以下の自由記述から浮かび上がってくるので、対策については以下で述べる。

### (24) 適切でなかった理由(自由記述)

記載のあった 17 件から「わかりません」と「ない」の 2 件、および「大学生になったのは、研究をしたためであって いろんな分野を勉強や知るためではない。自分の好きなことをなかなかできない。」の 1 件を除いた 14 件が本質問に対する有効な回答であり、有効回答率は  $14/882=1.6\%$ 、「あまり適切でない、適切でない」と答えた 60 名を母数にとると  $14/60=23\%$ であった。以下、内容別に示し検討する。括弧内の数字はコメントの件数である。

#### 答案返却に関する要望 (4 件)

テストの返却をして欲しい(3)、答案の返却案内を掲示して欲しい(1)

#### 採点や評価の基準・方法に関する不満・要望 (7 件)

採点の基準・方法が不満(3)、基準・方法の変更やその周知方法が不満(3)、試験対策に過去問の勉強を勧めたり、教科書を使った勉強だけでは落ちると言うのはおかしい(1)

#### 評価結果に関する不満 (3 件)

レポートが不正と見なされ不可となった(「不正の基準がないのに一方的に不正と見なされて不満」ということか)(1)、修得できて然るべき単位を修得できなかった(「それは評価方法が適切でないからだ」ということか)(2)

いずれも「定番の」コメントである。答案返却あるいは開示はできるだけ多くの科目で実施することが望ましい。採点や評価の基準・方法はシラバスに明記するとともに変更する場合は十分に周知すること、そして基準・方法は守ることが基本である。これらの「当然のこと」を行えば不満の多くは解消すると思われる。なお、評価結果に関する不満についても、評価の基準や方法を十分周知することで、かなり解消できるのではないだろうか(基準や方法によっては、その理由も説明して納得してもらうことが必要であろう)。

### ●共通項目にかかわる考察

学部の理念・目標、教育課程、シラバス、履修登録、自己学習の必要性に関する項目は、8割弱から9割強の回答者が理解していることから、教育目的・内容・方法や手続きに関する理解に大きな問題はないと判断できる。ただし、学生が理念・目標、教育課程、卒業要件などを一体のものとして理解できるよう、それらの提示方法を工夫することが今後は必要であろう。一方で、卒業後の展望や目的意識を持っていると回答した者は6割に届いておらず、非常に問題である。工学部の掲げるイマジニアの育成のためには、共通教育も含めて大学での学びによってどのような能力がどのように涵養されるのか、その先にどのような仕事の世界が広がっているのか、などを「専門教育と同程度に熱意を持って」学生に伝える必要があるのではないかと。学科のカリキュラムが自身の将来設計に役立っていないとする回答が3割程度にのぼることも、そもそも将来展望や目的意識の希薄なことが一つの原因ではないだろうか。もちろん、学科の掲げる人材養成目的に照らして学科のカリキュラムに問題があるならば、カリキュラムの改善を図るべきである。オフィスアワーについては、余り活用されていないことが問題であり、活用を促すため各学科が主体的にオフィスアワーの集約化を図ってはどうか。シラバスについては、書き方や内容が一定レベルを保つよう、各学科が主体的にチェックの仕組みを設けることが望ましい。自主学習については、ほとんどの学生がその必要性を認識していることが明らかになった。課題をこなせば自動的に一定の自主学習時間が確保されるなどの仕掛けを工夫することにより、自主学習を促す取り組みを一層進めることが大切である。

### ●工学部固有の項目にかかわる考察

授業内容、成績評価方法については回答者の9割以上が「適切」、「だいたい適切」と答えており、大きな問題はないように見える。ただ、一部ではあるが、授業内容、採点や評価の基準・方法に不満を訴える回答があり、その多くは、教員によって差があることに対する不満と捉えることができる。授業内容や評価基準・方法に教員個人が責任を持つ体制から、複数の教員で責任を持つ体制へ移行することを中長期的課題として考えてもよいのではないだろうか。卒業研究着手要件の理解度は8割程度には達しているものの、卒業要件に比べると理解度が低く、一層の周知に努める必要がある。キャップ制についての理解は低く、これも周知に努めなければならない。学科の学習・教育目標、およびそれらと学科の科目との対応関係についての理解は7割台であり、もっと理解度を高める必要がある。ただし、これらのことだけに的を絞って周知することは疑問である。理念・目標、DP・CP、教育課程、卒業研究着手要件、卒業要件などとの関連の中で理解できるよう、提示方法を工夫することが必要であろう。

**【工学部】**

アンケート実施期間:2013/09/18(水)~2013/10/31(木)

対象人数: 2512人 回答人数:882人 回答率: 35.1%

**(1) 学部の理念や目標を理解している。**

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

理解している	153人
だいたい理解している	527人
あまり理解していない	168人
理解していない	33人



**(2) 学科の教育理念や目標を理解している。**

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

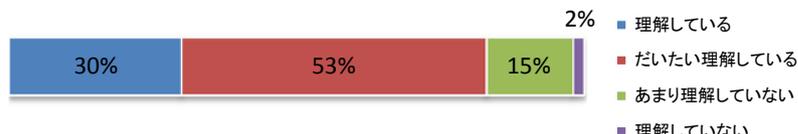
理解している	153人
だいたい理解している	511人
あまり理解していない	180人
理解していない	32人



**(3) 4年間を通じ各学年でどのような科目を履修しなければならないか理解している。**

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

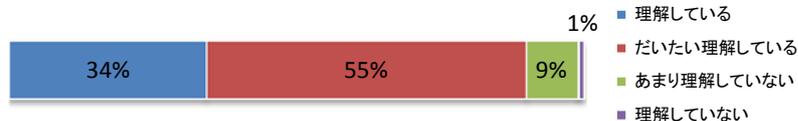
理解している	265人
だいたい理解している	465人
あまり理解していない	129人
理解していない	15人



**(4) シラバスの使い方を理解している。**

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

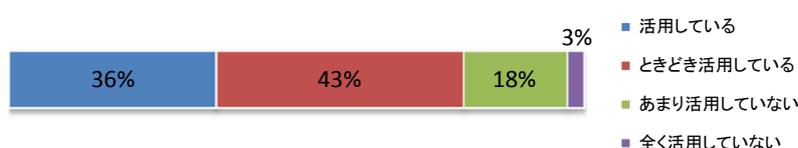
理解している	302人
だいたい理解している	485人
あまり理解していない	78人
理解していない	13人



**(5) シラバスを活用している。**

・活用している ・ときどき活用している ・あまり活用していない ・全く活用していない

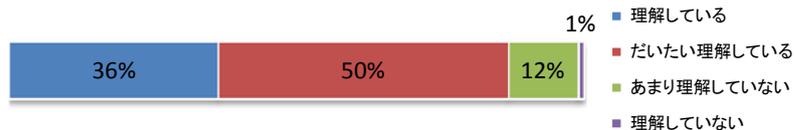
活用している	313人
ときどき活用している	379人
あまり活用していない	156人
全く活用していない	26人



**(6) 卒業要件を理解している。**

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

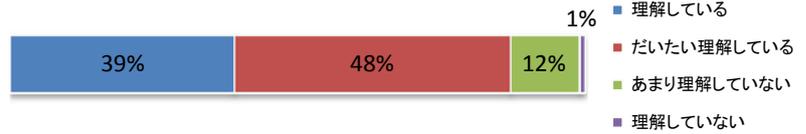
理解している	318人
だいたい理解している	439人
あまり理解していない	109人
理解していない	9人



(7) 必修科目、選択必修科目、選択科目の区分を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

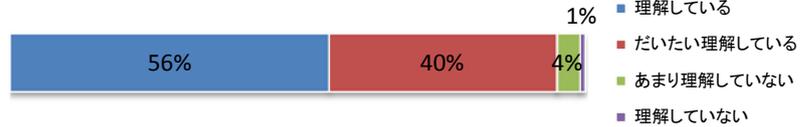
理解している	340人
だいたい理解している	419人
あまり理解していない	105人
理解していない	9人



(8) 履修登録の方法を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

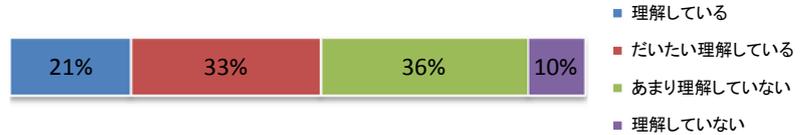
理解している	486人
だいたい理解している	347人
あまり理解していない	37人
理解していない	5人



(9) 授業を欠席する際や再試・追試を願い出る際の手続きを理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

理解している	182人
だいたい理解している	288人
あまり理解していない	315人
理解していない	91人



(10) オフィスアワーの存在を知っている。

・知っている ・知らない

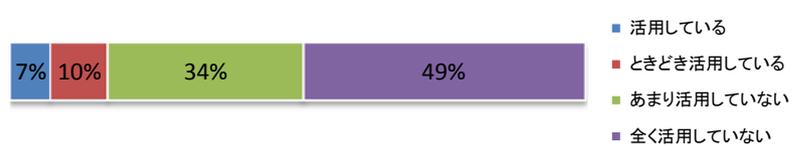
知っている	674人
知らない	200人



(11) オフィスアワーを活用している。

・活用している ・ときどき活用している ・あまり活用していない ・全く活用していない

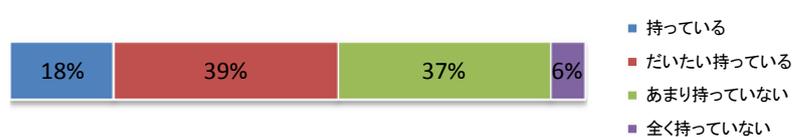
活用している	61人
ときどき活用している	87人
あまり活用していない	300人
全く活用していない	422人



(12) 卒業後の具体的な将来展望・目的意識を持っている。

・持っている ・だいたい持っている ・あまり持っていない ・全く持っていない

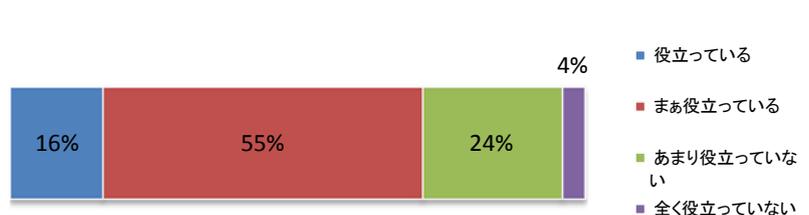
持っている	156人
だいたい持っている	333人
あまり持っていない	318人
全く持っていない	56人



(13) 学科のカリキュラムが自身の将来設計に役立っている。

・役立っている ・まあ役立っている ・あまり役立っていない ・全く役立っていない

役立っている	142人
まあ役立っている	480人
あまり役立っていない	212人
全く役立っていない	34人



(14)授業の前後に自主学習が必要であることを知っている。

・知っている ・知らない

知っている	777人
知らない	96人



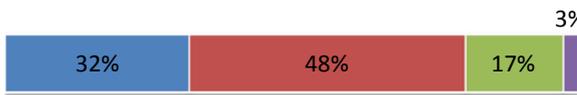
■ 知っている  
■ 知らない

(15) カリキュラム全般に関する意見・要望を自由に書いてください。【自由記述:300字以内】

(16)卒業研究着手要件を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

理解している	277人
だいたい理解している	415人
あまり理解していない	150人
理解していない	30人



■ 理解している  
■ だいたい理解している  
■ あまり理解していない  
■ 理解していない

(17) 各学期において履修できる専門教育科目の単位数に上限があることを知っている。

・知っている ・知らない

知っている	501人
知らない	371人

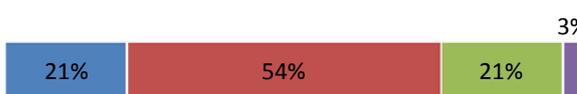


■ 知っている  
■ 知らない

(18) 学科の学習・教育目標を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

理解している	182人
だいたい理解している	473人
あまり理解していない	184人
理解していない	30人

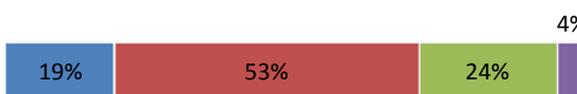


■ 理解している  
■ だいたい理解している  
■ あまり理解していない  
■ 理解していない

(19)学科で開講されている科目と学科の学習・教育目標との対応を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

理解している	162人
だいたい理解している	459人
あまり理解していない	213人
理解していない	37人



■ 理解している  
■ だいたい理解している  
■ あまり理解していない  
■ 理解していない

(20) 上記18と19について確認したことがある。

・ある ・ない

ある	361人
ない	508人



■ ある  
■ ない

(21)学科の学習・教育目標と照らして、授業の内容は適切であった。

・適切であった ・だいたい適切であった ・あまり適切でなかった ・適切でなかった

適切であった	177人
だいたい適切であった	653人
あまり適切でなかった	25人
適切でなかった	9人



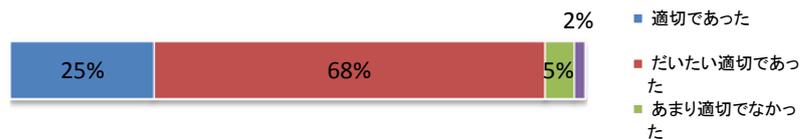
■ 適切であった  
■ だいたい適切であった  
■ あまり適切でなかった  
■ 適切でなかった

(22) 上記21で「あまり適切でなかった」あるいは「適切でなかった」と答えた場合、その理由【自由記述:300字以内】

(23)成績の評価方法は適切であった。

・適切であった ・だいたい適切であった ・あまり適切でなかった ・適切でなかった

適切であった	211人
だいたい適切であった	585人
あまり適切でなかった	44人
適切でなかった	16人



(24)上記23で「あまり適切でなかった」あるいは「適切でなかった」と答えた場合、その理由【自由記述:300字以内】

アンケート対象者(学生):

所属学科組織:工学部

アンケート実施期間: 2013/10/31(木) 00:00~2013/10/31(木) 23:59

回答者には以下のイメージで表示されます。

### 2013カリキュラム評価アンケート(工学部用)

この調査は、みなさんが授業等を受講するにあたって理解していること、考えていること等について調査することを目的としています。あなたが理解、考えている程度に応じてチェックして下さい。

(全ての項目にチェックした後、画面右下の「回答」ボタンをクリックしてください。)

アンケート実施主体:福井大学高等教育推進センター

1. 学部の理念や目標を理解している。

・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

2. 学科の教育理念や目標を理解している。

・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

3. 4年間を通じ各学年でどのような科目を履修しなければならないか理解している。

・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

4. シラバスの使い方を理解している。

・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

5. シラバスを活用している。

・活用している  ・ときどき活用している  ・あまり活用していない  ・全く活用していない

6. 卒業要件を理解している。

・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

7. 必修科目, 選択必修科目, 選択科目の区分を理解している。

・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

8. 履修登録の方法を理解している。

・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

9. 授業を欠席する際や再試験・追試験を願い出際の手続きを理解している。

・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

10. オフィスアワーの存在を知っている。

・知っている  ・知らない

11. オフィスアワーを活用している。

・活用している  ・ときどき活用している  ・あまり活用していない  ・全く活用していない

12. 卒業後の具体的な将来展望・目的意識を持っている。

・持っている  ・だいたい持っている  ・あまり持っていない  ・全く持っていない

13. 学科のカリキュラムが自身の将来設計に役立っている。

・役立っている  ・まあ役立っている  ・あまり役立っていない  ・全く役立っていない

14. 授業の前後に自主学習が必要であることを知っている。

・知っている  ・知らない

15. カリキュラム全般に関する意見・要望を自由に書いてください。【自由記述:300字以内】

16. 卒業研究着手要件を理解している。

- ・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

17. 各学期において履修できる専門教育科目の単位数に上限があることを知っている。

- ・知っている  ・知らない

18. 学科の学習・教育目標を理解している。

- ・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

19. 学科で開講されている科目と学科の学習・教育目標との対応を理解している。

- ・理解している  ・だいたい理解している  ・あまり理解していない  ・理解していない

20. 上記18と19について確認したことがある。

- ・ある  ・ない

21. 学科の学習・教育目標と照らして、授業の内容は適切であった。

- ・適切であった  ・だいたい適切であった  ・あまり適切でなかった  ・適切でなかった

22. 上記21で「あまり適切でなかった」あるいは「適切でなかった」と答えた場合、その理由【自由記述：300字以内】

23. 成績の評価方法は適切であった。

- ・適切であった  ・だいたい適切であった  ・あまり適切でなかった  ・適切でなかった

24. 上記23で「あまり適切でなかった」あるいは「適切でなかった」と答えた場合、その理由【自由記述：300字以内】

福井大学高等教育推進センター

事務担当：学務部教務課

小林 誠巳(0776-27-8400)内線2102

e-mail gkyomu-am@ad.u-fukui.ac.jp

回答

## アンケート結果詳細参照

## 問 1 5

学生

- ・そのままがいいと思います
- ・教授によってシラバスの書き方が違うので統一してくれるともっと見やすくなると思う。
- ・一般教養に定員を設けないでほしい
- ・満足している。
- ・特にありません
- ・このままでよい
- ・必修科目を引退した教授を講師として呼び、あまつさえ集中講義という形で受けなえればならないような状況に納得がいかなかった。授業料を払っているのに対し、その対応は不対応のものに感じた。
- ・特にありません。
- ・自分の学科のカリキュラムはとても充実していて、自分の将来にすごく役立っていると思います。
- ・特になし
- ・特になし
- ・共通教育について5分野のどれかに偏っても大丈夫なようにしてほしい
- ・大学入ってからやりたいことへの欲がなくなった  
というのもしらない教科が多いように思えるから
- ・グループで協力して取り組む機会が十分にあるのでいいと思う
- ・落としたりほぼ留年確定など厳しい科目が多すぎるのでどの科目も平等な難易度にしてほしい
- ・なし
- ・なし
- ・もっとコミュニケーション能力を高めるものもしたい
- ・一般教育が学年が上がるにつれて思い通りの科目を履修できないのが良くないと思います。
- ・すべての科目で再試験を行ってほしい。  
再試験がある科目とない科目があるのはおかしい。  
試験で持ち込み可の科目を増やしてほしい。  
試験で過去問と違う傾向を出すのをやめてほしい。
- ・このままでよいと思う。  
改善の必要はない。
- ・特になし
- ・今のところ学びたいことが学べている
- ・内容が難しすぎます。
- ・特になし
- ・社会において必要となる知識をさまざまな分野から学ぶことができ、参考になっている。
- ・特にない
- ・共通教育に費やす時間が惜しい。もっと専門科目の学習を深めたい。
- ・たまたに授業間の空き時間が長いことには不満を持ちます。
- ・nai
- ・もっと講義の選択の幅を広げてほしい。  
現時点では高校と一緒に。
- ・座学のみで頭でっかちにならないよう  
実技が必要であると感じます。
- ・特になし
- ・特になし
- ・特になし
- ・特になし

## アンケート結果詳細参照

取消

## 問 2 2

学生

- ・教授と学生科が連携していないから
- ・お金貰っている先生方にはもっと授業が面白くなることを期待します
- ・先生(人間だから仕方ないけど)が気分屋だったり、臆病や適当なテスト体制などもあり、真面目にやっていると損をする
- ・単位を取るだけで大変で、授業自体にあまり意味のないものが多い。
- ・どう考えてもシラバスに乗っ取ってなかった授業がありました
- ・学習・教育目標を理解していないため。
- ・授業をよく休んでいたので授業の内容が分からず、適切であるか判断できないから
- ・目標をあまり理解していない

## アンケート結果詳細参照

取消

## 問24

## 学生

- ・大学生になったのは、研究をしたいためであって いろんな分野を勉強や知るためではない。  
自分の好きなことをなかなかできない
- ・答案の返却案内を、掲示板に出して欲しい。
- ・テストの点数をどのようにつけているのかわからない科目が多い。  
生徒1人1人の成績を会議でつけているというが、どのような会議で、どうやって決めているのか等、非常に不透明である。
- ・文面として書かれていないことをテストに反映させるのはどうかと思った
- ・わかりません
- ・やりきったのに単位をいただけなかった。
- ・テストの返却をして欲しいから
- ・テストが返却されないため確認できないため見直しもできない。
- ・教授単位のつけ方が性格によって理不尽なつけ方をする人が結構いる
- ・評価方法とは少し違うが、試験の勉強に過去問をやってくれというのはどうもおかしい気がする。  
そこまでいうなら過去問を配布するかどうかの処置ぐらいして欲しい。教科書を使った勉強だけだと落ちるとまで言った人もいた。
- ・学期末テストがある科目で、テストの答案用紙を見せてほしい。テストで自信のあった科目の成績が良くなかったので、どこが間違っていたのか知りたい。
- ・必要要件をすべて満たしているにもかかわらず、不可の科目があったから。
- ・成績の評価方法を変更するのならば1年生の時点で説明する必要があるのではないのでしょうか。
- ・シラバスではテスト100パーセントのはずなのに先生が出席率も成績に入れると後々言ってた
- ・採点基準に不満を覚える場合があった
- ・ない
- ・提出したレポートが不正であるとみなされ、その講義の単位が不可となった。  
レポートの提出方法について、大学側でしっかりと規定を作るべきだと思う。